

秩父今宮神社崇敬会(仮称)

「会報」第四号

平成二十年九月一日

龍神祭を斎行

八大龍王に報恩感謝を捧げる

水分祭も行なわれる

水の恵みを水幣に託し

春恒例の今宮神社・八大龍王宮「龍神祭」が四月四日に斎行され、今年も多くの参列者が八大龍王を前に、いのちの水を司る御神徳を拝し、感謝を捧げました。祭主の塩谷崇之禰宜が祝詞を奏上し、全員が大前に玉串を捧げ、平和で豊かな社会と水の恵みを祈念しました。

奉納では、般若心経が奉読され、花柳鶴寿賀社中らによるアマミ舞や唄などが奉献されました。

祭典の終了にあたり塩谷治子宮司は「和合、習合の精神で神道と仏教をつなぎ、恵みの水を司っている尊い龍王様のお祭りを、今年も皆さまとともに執行でき嬉しいかぎりです」と挨拶しました。

当日は引き続き、恒例の「水

分祭(みくまりさい)」も行な

われ、「お田植え神事」にあ

つて当社に参られた秩父神社の

一行が、八大宮の御神徳である

武甲山の伏流水を「水幣」とし

て受けられました。なお、秋に

なつてこの一年の実りと農耕の

無事を喜び、恵みのお水が武甲

山を通じ当社・八大宮に返され

ますが、この感謝の祭りが十二

月三日に行なわれる秩父神社の

「秩父夜祭」です。

役尊神祭(行者祭)を執行

秩父霊場を開いた役行者に感謝

恒例の「役尊神祭(行者祭)」

が六月七日、役尊神祠(行者霊堂)

の前で執り行なわれ、当社の地

に八大龍王を奉祀し秩父霊場を

開いた役行者へ報恩を捧げ、併

せて世界平和を祈念しました。

祭典では、「法華経神力品第二

十一」「観音経」「般若心経」

が奈良・吉野山の金峯山寺龍王

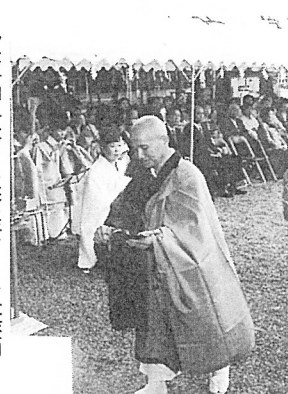
院住職の五條覚雄師と、覚王院住職の與儀龍祥師により奉納されました。

また、豎琴演奏家の小嶋さちほ氏が「役行者に捧げる声明賛歌」を、雅遊会の皆さんが「雅楽」を、それぞれ奉納されました。さらに地元選出の衆議院議員や秩父市長らの祝電も披露されました。

祭典終了にあたって祭主の塩谷宮司が挨拶し、五條師らに「観音経」等を読誦していただいたことに謝意を表するとともに、多くの方々陰なる力添えがあったことも付け加えました。



この後、参列者は長瀬・養浩亭に移動し、講演会にのぞみました。当社崇敬者の原知遙氏(株式会社夢大陸・代表取締役社長)が「神代の女神」、五條覚雄師が「八正道」について」と題してそれぞれ話しました。うち五條師は、八正道のなか



役尊神大前に奉経する五條師

でもまず「正語」が大事だとし、「正しい言葉を発することで膝下丹田が浄化されていく。それでこそ続いてそれぞれの正道ができる。そして初めて正しい祈りもできる。そのとき、人のための祈り、世界平和の祈りができ、正しい心の鎮めもできる」と語りました。

同師はまた、言葉には霊(たましい)があり、大峯の奥駈行では札所ごと正しく経を上げること、膝下丹田が浄まるとし、「苦しいとき、『懺悔懺悔六根清浄』と山念仏を唱えていると摩訶不思議、上へ上へと上っていき、行者の力をいただきにきているんだという思いのみになる。苦しいが脱せるという確信が湧き、山を降りたら社会のために頑張ってみようと思う」と話しました。そして、それぞれの生活環境においても、迷いの中でこそ無明を破り、悟りに近づく価値があると説きました。

一方、原氏は、自身の人生において神様に近づいていった経歴を語り、「神様を調べていると、神様は生きているんだな、そのDNAが自分の中にも入っているんだなと実感できる」と話して、「神代の女神」執筆のきっかけに触れました。

塩谷宮司が「神仏習合」をテーマに講演

「自然と生きる環境生命文明」

第一回シンポジウムで

全国の神職らでつくる平成神道研究会と神道時事問題研究会がそれぞれ二十周年、四十周年を迎えたのを機に、三月二十二日、第一回シンポジウム「自然と生きる環境生命文明を考える」が三重県伊勢市の猿田彦神社で



シンポジウムでパネリストを務める塩谷治子宮司

開催されました。自然に即した生命のあり方とは何か、神仏習合の精神が果たす役割や意義とは何か……。活発な意見交換が繰り広げられました。

そのパネルディスカッションで、当社の塩谷治子宮司は「我が社の神仏習合」と題して講演し、当地の靈地性を示すとともに、命や自然、環境をつなぐ今後の人間のあり方を提示しました。

塩谷宮司の講演内容の要旨を抜粋してご紹介します。

講演要旨

長岳山今宮坊はかつて、聖護院宮門跡(現・本山修験宗総本山聖護院)の末寺二万における直末二十九カ寺の一つであり、また、大宮禿大神(おおみやのみのおおかみ)を首座とする宮中

八神を奉斎する大宮山八大宮でもありました。

私はこの長岳山の五十八世、また聖護院直末今宮坊の二十一世として法灯を継ぐべきものとして生まれましたので、今、生命文明の世紀が開幕するにあたり、神仏習合の由緒深き我が社が果たさねばならない役割を感じつつ、お参りする人たちと交流を重ね、また各地を訪れては先覚者に学ばせていただきながら、社の興隆を願う日々を過しております。

秩父修験の法脈を踏まえ、さらなる修行を心がけていますが、習合する神仏が世界平和や環境問題に対し、あるいは人々の心身の健康にとって、重要なメッセージを発信する大いなる可能性を蔵していることを、私自身あらためて確認するための貴重な場をいただいたと感じています。

みかんぎ 御巫八神と 八大龍王の御魂が 習合し――

さて、この社は古来、自然環境にまことに恵まれ、龍神が祀られる条件が揃っていました。山・石(岩・玉(ギョク))・洞(木)が水で結ばれ、南には武甲山が、北には北極星が、境内の池には霊水が湧き出し、そして樹齢一〇〇〇年の巨木(槻「櫻」)には大きな樹洞があり、まこと気がよく、自然の法則(恒常性)の確立される条件のもと、清らかな魂(玉)が宿る処でありました。そしてここには、仏教伝来の以前から、御巫八神(みかんぎはつしん)など尊い神々が祀られていました。

大宝年間(七〇一〜七〇四)、役行者小角が、ここに八大龍王という水をつかさどる神を合祀して、修験道の基地をつくったと言われております。天長二年(八二五)に弘法大師空海が来遊して護摩を修し、大日如来を祀って密教を伝えると、仏教の護り神でもある八大龍王は法華経を護持して観音の守護神となりました。その妙智力で多くの

神仏の習合はすすみ、社や堂が
たくさん建立されました。

御巫八神の御魂と、八大龍王
の御魂が習合したということは、
そこに同一性をみることででき
ます。また大宮売大神が首座に
祀られたということで、当時の
朝廷との密接な関係を推察する
ことができます。御巫八神は神
道を、八大龍王は仏教を護り、
この習合のお力によって、その
後も多数の神仏を統べていき、
さらに修験者らの行動力とも相
まって、秩父霊場の大発展が促
されたものと理解しています。

妙なる水は

最高の魂(玉)と

結ばれ——

武甲山は古くはタケ山と呼ば
れ、おおよそ一三〇〇メートル
の石灰岩の山ですが、そこに降
った雨は岩や石を通って地底湖
となり、そこからの水は伏流水
となつて、やがて当処に泉とな
つて湧き出しています。霊験あ
らたかな水であると伝えられ、
天皇の玉体安護、五穀豊穡を約
する水と称えられ、比類なき恵
みの水としてその大威力は、の

ちの世に和讃に詠われ、今に伝
承されています。

こうした、自然を信仰し、利他
行を尊び、異質なものを包み
愛する信仰は、明治維新の修験
道廃止令が出るまで続きました。

武甲山の神と、今宮の神とを
つないできた伏流水は、その霊
妙な働きから最高の魂(玉)と
結ばれたものとなり、日本建国
に尽力された立派な魂(玉)で
ある太玉命の、その娘である大
宮売大神の座すところとなりま
した。そしてやがて、御巫八神
がそろつて祀られるほどの霊地
として知られていき、女神は大
神と称えられ、当地は大宮山と
呼ばれるようになりました。

水分祭で恵みの水に

願いと感謝を込めて——

当社では毎年四月四日、水分
祭が行なわれ、「水幣授与の儀」
と称する神事が上古より連綿と
続けられています。この日、秩
父神社ではお田植祭が行なわれ
ますが、そのための「水乞の神
事」として秩父神社の神職が今
宮神社に参詣されます。今宮神

社は秩父地方の発展隆昌と秩父
神社の例大祭成功を祈願し、水
幣(今宮の御神徳)を授与しま
す。そして秩父神社のお田植祭
はこの水幣をもって斎行され、
その年の豊作と人々の幸せを祈
るのです。

同時に、この水分祭で宮司の
私は、首都圏一千万人に対する
水の恵みも併せて祈願し、心を
込めて祝詞を奏上しております。
お水の神様の象徴であるその水
幣は、秩父神社で十二月三日の
例祭日まで大切にお守りされ、
やがて秋の収穫も終わつて例祭
日がくると、感謝を込めて武甲
山にお返しします。それが秩父
神社の例大祭であり、その豪華
な付け祭りは、山車や太鼓、花
火が荘厳で、秩父夜祭として有
名になっています。しかし、今
宮神社の水分祭で授与した水幣
を結んだ、樽神興^〆が神幸行列
の先頭に行くことはあまり知ら
れておりません。

大宮売大神の

祀られた意味を

今ふたたび——

かつては白蛇(しろへび)が

水の化身とされましたが、仏教
色が強まり、法華経の中の観音
経の信仰の高まりとともに、次
第に蛇が龍王になっていったと
の説もあります。

白蓮のように美しいといわれ
る法華経を説く釈尊の会座に、
八大龍王が幾千万の眷属ととも
に聴聞に来られたという説話が
あります。龍王の眷属とも、万
物の長ともいわれる人類が、こ
の説話にもっと深く気付き、神
仏習合の教えの真髄をふたたび
学ぶ時が来ているように感じて
おります。

太玉命の娘の大宮売大神の魂
(玉)が伏流水を通してこの地
に祀られたということの意味を、
この地に縁を結んだ人のみなら
ず、水によって生かされている
生きとし生ける者たちがしっか
りと理解し、一刻もはやく地球
環境の実状を知り、その修復に
関心を寄せていって欲しいと思
うのです。

霊地性は由緒や名所に

残り伝えられる——

この地は全国百観音霊場、秩

父三十四観音霊場の一つでもありません。

当社に隣接する十四番札所は正式には今宮観音堂と呼ばれ、その由緒はそのご詠歌などにはつきりと残されています。西国十五番・泉湧寺のご詠歌の上の句と同一であること、そのシンボルは今宮観音が龍、泉湧寺が鳳凰であること、そして天文五年(一五三六)、当社にスサノヲ命が祀られ、その翌年に観音堂が一つ増えて秩父札所は三十四カ所となった記録のあること、また、自然銅が産出され朝廷に献上されたのを記念する和銅祭も、かつては当社の祭事であったこと。このように秩父のこの地は、朝廷ゆかりの霊地として埋もれてはならない大切な処であり、それを感じて、先祖たちも必死の思いで守ってきたのだと思っっています。

聖地に神仏を祀り、
霊場を築いた先人に
思い馳せ——

時代がいかに移ろうとも、変わることにない自然の法則に満ちているこの場所に、貴重な資源を蔵する「山」や「玉(鉱石)」や「洞をもつ大樹」を選定し、神聖な霊地に相応して、神仏を祀る霊場を築きあげていった先人・先駆者たちの篤き思い、愛する子孫たちへの想い、その深さに心打たれてなりません。それがまさに、当宮の開祖、役行者とその崇敬者たちの至誠と霊力だったと思います。

その役行者は生涯、仏教を深く学びつつも出家はされず、優姿塞(うばそく)と呼ばれた修験者でした。泰澄や行基より少し前に活躍され、修験道の開祖と称えられ、のち一六九九年になつて朝廷から神変大菩薩という諡号(しごう)を賜った人だったのです。

余談ですが、今宮坊十七世の廣久の養子で、塩谷直女の夫である十八世・純乗は、朝廷から法橋法印の名を賜った人です。「法の橋」とは「神と仏の懸け橋」の意で、神仏習合の時代に大きな足跡を印した人でありました。修験道は役行者に発し、明治維新で廃されました。純乗の子である廣純は二十一歳で還俗し、儔(ひとし)と名を変え、秩父神社の祠官(現在でいう宮司)として再出発し、おおよそ四十年間、神仏分離の直後の秩父霊場を新政府の方針に従つて整え、新しい時代の礎となった人でした。

自然の法則と共生できる場に 光を当てて——

神仏分離令から百四十年経った現在、私たちの愛する地球環境の危機、宗教間の争いなどが人類の生存をおびやかしています。どうすれば生物は生き残れるのでしょうか。とりわけ水不足や水環境の悪化は深刻で不安は募るばかりです。

その解決の一つの方法は、自然の循環に心を向ける、その姿勢を取り戻すことであり、また、先人たちが築き、大切に保ってきた当処のような恒常性の確立された場所にふたたび光を当ててゆくことだと思ふのです。

同時に、そこに祀られた神仏の姿や働きからのメッセージを受け止める感性を磨く機会や場面の整備に努めることだと思っ

ています。そして、自然と共生していくことの大切さを、神仏の習合した時代において身をもって後世に伝えようと努めた先人の恩に気付き、報いることも忘れてはならないことだと思ひます。この心と、自然環境を大切に思う心とは同じだと思ふのです。

これらのことは、神道からは仏教の心を、仏教からは神道の心を学ぶことによつて、どちらも大切であるということに気付き、それを生活の中に生かしてゆくことにほかならないのではないでしようか。

今宮神社は誠の心をもつて神明に奉仕しながらも、神仏習合の八大宮に伝えられた精神を大切にし、現在に生かしながら、神仏の相座すさらなる聖域づくりに努めてまいりたいと存じます。そして、諸宗教の方からも学ばせていただきながら、今後の精進こそがより一層大きな意味を持つことを再認識しつつ、環境生命文明の発展に寄与し、世界の平和に貢献することができれば大変うれしいと思つております。

総代として思うこと

氏子総代

井上貞雄

日本人は宗教心が薄いとか、信仰心がないとか、よく言われますが、その場合の日本人というのは現代の人(徳川時代以降の日本人)であって、それ以前の日本人ではないといわれています。

本来、日本人には自然崇拜の形で熱烈な民間信仰もあったし、古代神道もありました。

そして仏教が日本に渡来したとき、仏教も神道と同じようなものとして信仰されて神仏一体・権現(仏・菩薩が人間を救うため、かりに人間世界に現われること)という思想が生まれるわけですが、神仏習合思想というのはとつても合理的な思想だったんですね。

八百萬の神といわれるように、日本人の神々は、一神教であるユダヤ教、イスラム教、キリスト教のように信じる宗教と違い、

日本人の宗教・信心というのは神の気配を感じるか感じないかという感じる宗教なのです。

人間・神・仏・水・草・木・自然の中に入って気配を感じる。太陽をはじめとしてあらゆるものに生命が宿り、それを神と考える人もいるだろうし、仏と考える人もいますね。

日本の町や村には、いたる所にお地蔵様があり、神社やお寺があります。何が祀られているのか分からなくても鳥居があれば拝んで、お寺があれば宗派に関係なくまた拜む。日常生活の中で当然のこととして仏壇や神棚に手を合わせたりする。

それなのに、明治時代に神仏分離令なるものが発令され、廃仏毀釈などという考えが起きて、日本の宗教はむちゃくちゃになつてしまつたんです。

ここ今宮神社は神仏習合思想と神の気配を感じられる場所として、武甲山の伏流水(環境省指定・日本名水百選)がこんこんと湧き出ている清龍の滝や龍神池のあるところとして、そして、奇跡のご神体が現われた千

年櫓など神を体感できる神社として、最近、とくに注目されている古い神社です。

現代の人々が忘れかけている自然の大切さ(地球温暖化、様々な環境問題等)を心の中から見直すことのできる数少ない場所(聖地)であると信じております。

ご来社くださった皆さまの大切な信仰心を心に留め、これからもこの今宮神社をより一層、お守りできるように一所懸命お勤めをさせていただきますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

崇敬会(仮称)からのお知らせ

各地で講や崇敬グループ

発足の動き

愛知県在住の舟橋淑行様(第8面の協賛欄を参照)は現在、同県を中心とした中部地方での講設立に向けて奔走していただいています。

このほかにも、各地で崇敬グループや講を組織しようという

皆様の動きが出ています。

崇敬会設立準備会としても鋭意、会発足に向けた下準備を進めておりますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

小林大僧正(延暦寺長膺)から 宮司に激励のお便り

平成十九年の役尊神祭に特別参列くださり、記念講演をしていただいた比叡山延暦寺長膺の小林隆彰大僧正からこのほど、暑中お見舞いをかねた激励のお便りが塩谷宮司宛に届きました。

九月二十八日「例大祭」のご案内

別途ご案内の通り、九月二十八日午前十時半より、平成二十年の「例大祭」が執り行なわれます(受付は九時半から)。御祭神に報恩感謝の念を捧げ、家族や地域や日本、そして世界の安穩無事を祈念します。

今宮トピックス

神社の二ユース・
出来事を
ご紹介します

「清龍の滝」石碑完成 「平成の名水百選」記念し

環境省が六月に選定した「平成の名水百選」の一つに、「武甲山伏流水」が選ばれました。当社境内の龍神池に湧き出すこの恵みの水は八大宮の御神徳であり、四月の「水分祭」では水幣として秩父神社のお田植神事のために授与されるほか、環境浄化の象徴として、またお浄めの霊水として珍重されています。



石碑奉獻式記念撮影

境内にはこの水をひいた「清龍の滝」があり、「名水百選」を記念してこのほど、石碑が建てられました。さいたま市の成田咲子様が発願、東京・新宿の井ノ上法洲様のご寄進によるものです。碑文は塩谷治子宮司の筆跡です。竣功式が七月二十日、西沢形一神主を祭主に行なわれました。

「夏越の祓」を執行

半年の穢れを祓い、後半年の活力をいただく「夏越の祓」が六月三十日、杉本昌子権禰宜を祭主に神社神道の祭式に則って斎行されました。約三十人の列席をいただきました。

毎週日曜日に「神道護摩」を斎行中

毎日曜日の午前十一時から、神道護摩を斎行しています。所願成就、先祖供養など、皆さまの様々な思いを書いた護摩木を焚いて祈念します。もちろんどなたでも参列でき、護摩木1組(十本)を受けられますと、護摩終了後、御神木に手を触れることができます。所願を書いたただく護摩木は社殿前と札場

にご用意してあります。詳しくは気軽にお尋ねください。

奉納・寄進つづく 境内整備用の砂利、水晶原石

このほど、両神興業株式会社より、境内整備に必要な砂利3トンをご寄進・ご寄贈いただきました。

また深谷市のストーン丸甲様より、豪華で美しい水晶の原石のご奉納がありました。

総代さんが案内・解説に 精を出す

地域総代の井上貞雄ご夫妻に三月十八日から七月十八日まで行なわれた秩父観音霊場御開帳の期間中、札場で御朱印の方々と参拝者への解説や案内にご奉仕していただきました。期間終了後も引き続きご奉仕していただいております。
ご夫妻には当神社崇敬会の設立準備委員に入っていただくこともお願いしております。

川田氏がガラス器『銀河』を奉納

崇敬者の伊勢神宮奉獻行事ボランティアアプロデューサー、ジェームス川田さんからこのほど、琉球ガラス器『銀河』(一器、末吉清一作)のご奉納がありました。現在、行者堂に奉置しております。

歩き巡礼の錬成が修了 崇敬会青年部

崇敬会青年部はこの春から、修験者・野沢和民師の指導のもと、二名の研修生を中心に秩父札所錬成巡礼(歩き巡礼)を続けておりましたが、七月二十七日の札所三十三番く杖立峠く札所三十四番の巡拝行をもって無事、滞りなく修了をむかえました。

『神代の女神』 社務所でも販売中

崇敬者である原知遙様(福岡市)の著書『神代の女神』(梓書院)が好評発売中ですが、当社社務所でも同書を販売しております。

原様は執筆に当たって、当社のご祭神の一柱である女神・大宮売大神にもお参りし、塩谷宮司からも教授、アドバイスをうけられました。

当社にゆかりの聖地へ

「京都・聖護院と奈良吉野・

金峯山寺への巡礼」

十二月十一日から十四日

参加者を募集中

当社崇敬会

今宮神社崇敬会では十二月十一日から十四日までの三泊四日の日程で、当社にゆかりの深い本山修験宗総本山・聖護院門跡(京都)や、役行者開山で世界文化遺産の金峯山修験本宗総本山・金峯山寺(奈良・吉野)などを巡る「バス巡礼」を企画しました。

塩谷宮司も同行するほか、聖護院や金峯山寺では普段は拝観できない特別なお堂も参拝し、教務担当の僧侶のかたから御法話や解説をいただきます。現地での宿泊(二泊)はそれぞれの宿坊となり、朝の勤行などにも参加させていただくことができます。ご高齢の方でも無理なく参加できるように、ゆとりある日程で企画しておりますので、崇敬者の皆さまのご参加をお勧めいたします。

日 時	12月11日(木) 午後10時30分より 12月14日(日) 午後9時頃まで	寺社への奉納金	7,000円 寺社での正式参拝等の奉納金として徴収致します。 旅費と一緒にお振込みして下さい。
参拝寺社	・京都聖護院 ・八坂神社 ・龍王院 ・喜蔵院 等 ・石清水八幡宮 ・吉野山金峯山寺 ・蔵王堂	募集人員	35名(30名で催行)
参加費	43,000円 ◎参加申し込み者には、後日、郵便振替用紙を郵送致します。 ◎二泊の朝夕食代を含みます。 ◎12日朝食・昼食、13日昼食、14日昼食は自前	メ 切	35名になり次第
		その他	神社企画の為キャンセル時は、バス代のみお支払いとなります。(2万円位)
		問い合わせ	今宮神社 神主・西沢まで TEL0494-22-3386 携帯090-3225-6286

月日	コース	宿泊・食事
1 12/11 (木)	(出発) 秩父市 19:30 —— 花園IC —— (休憩) 三芳PA 21:00~21:15 —— 大泉JCT —— 池袋駅 22:30 —— 高井戸IC —— (休憩) 談合坂SA 23:45~00:00 —— 諏訪湖SA (休憩) 01:15~01:30	
2 12/12 (金)	(休憩) 養老SA 03:45~04:00 —— (休憩・自由朝食) 大津SA 05:00~07:30 —— (正式参拝) 石清水八幡宮 08:30~11:00 —— (自由参拝・自由昼食) 八坂神社 11:30~14:00 —— 聖護院 14:15 —— (宿泊) 聖護院御殿荘 17:00 ——	【宿泊】 聖護院御殿荘 TEL:075-771-4151
3 12/13 (土)	聖護院御殿荘 08:30 —— 城陽IC —— 木津IC —— (参拝) 大神神社 10:00~10:45 —— (宿泊) 喜蔵院 12:30	【宿泊】 吉野山喜蔵院 TEL:0746-32-3014
4 12/14 (日)	(参拝) 喜蔵院 —— (自由食) 喜蔵院 11:00発 —— 伊賀ドライブイン 13:00~13:45 —— 亀山IC —— 四日市JCT —— 豊田JCT —— (休憩) 浜名湖SA 16:00~16:15 —— (休憩) 富士川SA 17:30~17:45 —— (休憩) 海老名SA 18:45~19:00 —— 東京用賀IC —— 池袋駅 20:00 —— 大泉JCT —— (休憩) 三芳PA 21:15~21:30 —— 花園IC —— (解散) 秩父市 23:30	

バス —— 徒歩 -----

【13日の喜蔵院到着後、および14日の午前中に、金峯山寺様などにより、金峯山寺・蔵王堂・龍王院などをご案内いただけます。】

遠藤グループ

世話人 遠藤知江子

久喜グループ

世話人 滝沢陽子

江戸川講

代表 稲生喜久子

埼玉読売写真クラブ

秩父市野坂町

小林良則

地域協賛者

(秩父市)

片山誠二郎

原和男

羽山幸男

浅見正章

竹井克彦

浅賀彦

新井猛

井上貞雄

中忠司

原島食品

金亀時計店

井上吉男

富田明

新井悦平

新井豪

石渡保

小久保利弘

緑とせきれいのお宿

今宮神社指定の宿

上長瀨 養浩亭

〇四九四一六六一三一一三二

日本人の心を蘇らせ

世の中を変える究極の本

「お天道さまが見ている」

舟橋淑行著

明窓出版

〇三三三三八〇一六四二四

小山市

高見良平

小山市

高見キヌ子

TDE式調整師
健友館整体師

小松達巳

武蔵野市吉祥寺北町一丁目一五二七
〇四二二二一七六二六

住宅用火災報知機
ガス漏探知機・消火器

(有)高橋商会

秩父市東町二二一
〇四九四一三二一三二二

平成二十年九月一日

発行 今宮神社崇敬会(仮称)

事務局担当 神主・西沢

会報紙発行委員会(仮称)

編集担当 菅野

〒三六八-〇〇四三

埼玉県秩父市中町十六一〇

電話 〇四九四(二二)三三八六

FAX 〇四九四(二二)三三三三

http://homepage2.nifty.com/imamiya/

又は「今宮神社」で検索して下さい。